

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更										
フリガナ設置者	シズオカケンコウリツダイガクホウジン 静岡県公立大学法人										
フリガナ大学の名称	シズオカケンリツダイガクガイガクイン 静岡県立大学大学院 (Graduate School, University of Shizuoka)										
大学本部の位置	静岡県静岡市駿河区谷田52番1号										
大学の目的	学術の理論及び応用を教授・研究し精深な学識と研究能力を養い、もって文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。										
新設学部等の目的	教育力と研究力を発揮して新たな看護学の知識体系の構築・開発に取り組み、専門的知識と指導力に基づいた質の高い教育・研究を実践できる看護学研究者・教育者を養成する。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing) 看護学専攻 (Department of Nursing) 博士後期課程 (Doctor's Course of Nursing Science)	3年	3人	-	9人	博士(看護学) Doctor of Philosophy in Nursing Science	年月 第1年次 平成32年4月 第1年次	静岡県静岡市駿河区 小鹿2丁目2番1号			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	看護学研究科看護学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	16単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
	新設分	看護学研究科看護学専攻 (博士後期課程)			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計			12人 (12)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	17人 (17)	0人 (0)	1人 (1)
	既設分	薬食生命科学総合学府薬科学専攻 (修士課程)			15人 (15)	8人 (8)	19人 (19)	12人 (12)	54人 (54)	0人 (0)	0人 (0)
		薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻 (修士課程)			15人 (15)	7人 (7)	1人 (1)	19人 (19)	42人 (42)	0人 (0)	1人 (1)
		薬食生命科学総合学府環境科学専攻 (修士課程)			6人 (6)	3人 (3)	0人 (0)	10人 (10)	19人 (19)	0人 (0)	1人 (1)
		薬食生命科学総合学府薬学専攻 (博士課程)			6人 (6)	4人 (4)	7人 (7)	6人 (6)	23人 (23)	0人 (0)	0人 (0)
		薬食生命科学総合学府薬科学専攻 (博士後期課程)			10人 (10)	7人 (7)	10人 (10)	9人 (9)	36人 (36)	0人 (0)	0人 (0)
		薬食生命科学総合学府薬食生命科学専攻 (博士後期課程)			9人 (9)	2人 (2)	9人 (9)	8人 (8)	28人 (28)	0人 (0)	0人 (0)
		薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻 (博士後期課程)			11人 (11)	6人 (6)	1人 (1)	14人 (14)	32人 (32)	0人 (0)	1人 (1)
		薬食生命科学総合学府環境科学専攻 (博士後期課程)			6人 (6)	3人 (3)	0人 (0)	10人 (10)	19人 (19)	0人 (0)	1人 (1)
		国際関係学研究科 (修士課程)			12人 (12)	5人 (5)	4人 (4)	1人 (1)	22人 (22)	0人 (0)	1人 (1)
		国際関係学専攻			12人 (12)	3人 (3)	5人 (5)	1人 (1)	22人 (22)	0人 (0)	0人 (0)
		国際関係学研究科 (修士課程) 比較文化専攻			12人 (11)	14人 (14)	4人 (4)	1人 (1)	31人 (30)	0人 (0)	2人 (2)
		経営情報イノベーション研究科 (修士課程)			13人 (13)	9人 (9)	3人 (3)	3人 (3)	28人 (28)	0人 (0)	13人 (13)
経営情報イノベーション研究科 (博士後期課程)			13人 (13)	9人 (9)	3人 (3)	0人 (0)	25人 (25)	0人 (0)	0人 (0)		
看護学研究科看護学専攻 (修士課程)			12人 (12)	8人 (8)	1人 (1)	2人 (2)	23人 (23)	0人 (0)	23人 (23)		

		計	73人 (73)	49人 (49)	35人 (35)	47人 (47)	204人 (204)	0人 (0)	— (—)		
		合計	73人 (73)	49人 (49)	35人 (35)	47人 (47)	204人 (204)	0人 (0)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		73 (73)		35 (35)		108 (108)				
	技 術 職 員		3 (0)		0 (0)		3 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		0 (0)		3 (3)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	計		79 (76)		35 (35)		114 (111)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計				
	校舎敷地	178,730.44㎡	4,766.00㎡		22,914.20㎡		206,410.64㎡				
	運動場用地	6,576.27㎡	0.00㎡		7,428.38㎡		14,004.65㎡				
	小 計	185,306.71㎡	4,766.00㎡		30,342.58㎡		220,415.29㎡				
	そ の 他	3,329.08㎡	5,173.00㎡		0.00㎡		8,502.08㎡				
合 計		188,635.79㎡	9,939.00㎡		30,342.58㎡		228,917.37㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計				
		74,492.68 (74,492.68㎡)	4,766㎡ (4,766㎡)		12679.19㎡ (12,679.19㎡)		91,937.87㎡ (91,937.87㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設				
	49室	17室	47室		10室 (補助職員 一人)		3室 (補助職員 2人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数						
		看護学研究科博士後期課程			17 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	看護学研究科(博後期課程)看護学専攻	12,912 [1,790] (12,912 [1,790])	150 [47] (150 [47])	20 [20] (20 [20])	589 (589)	4,014 (4,014)	139 (139)				
	計	12,912 [1,790] (12,912 [1,790])	150 [47] (150 [47])	20 [20] (20 [20])	589 (589)	4,014 (4,014)	139 (139)				
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
		7,740.49㎡		1,410席		約1,142,000冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		6,805.90㎡		テニスコート12面 7,766㎡							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当り研究費等		380千円	380千円	380千円	—	—	—		
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	—	—	—		
		図書購入費	7,426千円	7,426千円	7,426千円	7,426千円	—	—	—		
	設備購入費	8,260千円	8,260千円	8,260千円	8,260千円	—	—	—			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
県内761千円 県外987千円		536千円	536千円	—千円	—千円	—千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			授業料、入学金、入学検定料、その他特定財源により維持運営し、不足する部分については、静岡県の運営費交付金を充当する。								
既設大学等の状況	大 学 の 名 称 静岡県立大学										
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	薬学部 薬学科		6 4	80 40	— —	480 160	学士(薬学) 学士(薬科学)	1.07 1.08 1.05	平成18 平成18	静岡県静岡市 駿河区谷田 52番1号	
	食品栄養科学部 食品生命科学科		4	25	—	100	学士(食品栄養科学)	1.07 1.09	昭和62		
	栄養生命科学科		4	25	—	100	学士(食品栄養科学)	1.05	昭和62		

既設大学等の状況	環境生命科学科	4	20	—	80	学士(食品栄養科学)	1.08	平成26			
	国際関係学部 国際関係学科	4	60	—	240	学士(国際関係学)	1.13	昭和62			
	国際言語文化学科	4	120	—	480	学士(国際言語文化学)	1.13	昭和62			
	経営情報学部 経営情報学科	4	125	—	425	学士(経営情報学)	1.09	昭和62			
	看護学部 看護学科	4	120	3年次25人	530	学士(看護学)	1.00	平成9			
	(修士課程) 薬食生命科学総合学府 薬科学専攻	2	30	—	60	修正(薬科学)	1.08	平成24			
	食品栄養科学専攻	2	25	—	50	修士(食品栄養科学)	1.40	平成24			
	環境科学専攻	2	20	—	40	修士(環境科学)	0.47	平成24			
	国際関係学研究科 国際関係学専攻	2	5	—	10	修士(国際関係)	1.00	平成3			
	比較文化専攻	2	5	—	10	修士(比較文化)	0.60	平成3			
	経営情報イノベーション 研究科 経営情報イノベーション専攻	2	10	—	20	修士(経営情報学) 修士(学術)	1.10	平成23			
	看護学研究科 看護学専攻	2	16	—	32	修士(看護学)	0.59	平成13	静岡県静岡市 駿河区小鹿 2-2-1	平成31年度入学定員 増(+25人)	
	(博士後期課程) 薬食生命科学総合学府 薬学専攻	4	5	—	20	博士(薬学)	1.11	平成24	静岡県静岡市 駿河区谷田 52番1号		
	薬科学専攻	3	11	—	33	博士(薬科学)	1.11	平成24			
	薬食生命科学専攻	3	5	—	15	博士(薬食生命科学、 生命薬科学)	0.73	平成24			
	食品栄養科学専攻	3	10	—	30	博士(食品栄養科学)	0.23	平成24			
	環境科学専攻	3	7	—	21	博士(環境科学)	0.00	平成24			
	経営情報イノベーション 研究科 経営情報イノベーション専攻	3	3	—	9	博士(経営情報学) 博士(学術)	1.66	平成23			
	大学の名称	静岡県立大学短期大学部									
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地		
	静岡県立大学 短期大学部	年	人	年次 人	人		倍		静岡県静岡市 駿河区小鹿 2-2-1		
	歯科衛生学科	3	40	—	120	短期大学士 (歯科衛生学)	1.02	平成9			
	社会福祉学科 (社会福祉専攻)	2	20	—	40	短期大学士 (社会福祉学)	0.81	平成9			
(介護福祉専攻)	2	50	—	100		1.25	平成9				
こども学科	2	30	—	60	短期大学士(こども学)	0.64	平成9				
1.06	平成28										
附属施設の概要	<p>名称:健康支援センター 目的:健康増進、心の相談室、医務室の3つの部署により教職員、学生の健康増進をはかること 設置年月:平成17年4月 規模等:196㎡</p> <p>名称:情報センター 目的:情報システムを活用した教育・研究の活性化、事務システムの管理・運用を行うこと 設置年月:平成17年4月 規模等:238㎡</p>										

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称:言語コミュニケーション研究センター 目的:教育言語学及び多文化コミュニケーション学の研究を行うとともに、全学の英語教育を推進すること 設置年月:平成19年4月 規模等:56㎡</p> <p>名称:男女共同参画推進センター 目的:研究・調査や教育・啓発の充実、雇用や環境の整備などさまざまな面から、学内の男女共同参画の実現をめざして、すべての学生と教職員に対する全学的な取り組みを行うこと 設置年月:平成20年8月 規模等:179㎡</p> <p>名称:グローバル地域センター 目的:日本にとって大きな課題であるアジア及び危機管理について、学内外の研究者、県内の企業、自治体の専門家の協力を仰ぎながら、調査研究を行うこと 設置年月:平成24年4月 規模等:282㎡</p> <p>名称:「ふじのくに」みらい共育センター 目的:静岡県の知の拠点として、「健康長寿文化の発展」に貢献できる人材育成のため、全学教育体制の構築や自治体との連携強化などに取り組むこと 設置年月:平成26年10月 規模等:149㎡</p> <p>名称:漢方薬研究施設 目的:漢方薬の薬効評価等の研究を行うこと 設置年月:平成元年4月</p> <p>名称:薬草園 目的:薬学部の教育に必要な植物の栽培、収穫及び研究を行うとともに、一般社会人の生涯教育の場を提供すること 設置年月:平成元年4月 規模等:5,300㎡</p> <p>名称:薬学教育・研究センター 目的:静岡県立総合病院における長期実務実習の指導および診療科・薬剤部との臨床共同研究の推進すること 設置年月:平成20年8月</p> <p>名称:創薬探索センター 目的:創薬の実現及び研究開発を担う人材養成すること 設置年月:平成16年4月 規模等:293㎡</p> <p>名称:薬食研究推進センター 目的:健康科学の発展および健康長寿社会の実現に寄与すること 設置年月:平成25年11月 規模等:67㎡</p> <p>名称:食品環境研究センター 目的:食品・栄養・環境科学の各分野の研究を通して、地域における健康福祉の向上と産業の活性化に資すること 設置年月:平成26年4月 規模等:120㎡</p> <p>名称:茶学総合研究センター 目的:産学民官と連携して茶を総合的に科学し、茶業振興に寄与すること 設置年月:平成26年4月 規模等:81㎡</p> <p>名称:現代韓朝鮮研究センター 目的:アジア地域をめぐる諸問題の専門的、総合的研究を行うこと 設置年月:平成15年1月 規模:35㎡</p> <p>名称:広域ヨーロッパ研究センター 目的:広域ヨーロッパ研究を組織的・体系的に進め、日本国内外の国際関係学研究の発展に貢献すること 設置年月:平成20年8月 規模等:35㎡</p> <p>名称:グローバル・スタディーズ研究センター 目的:グローバル化の多面的・複合的な現象を組織的・体系的に進め、日本国内外における国際的諸科学の発展に貢献すること 設置年月:平成20年8月 規模等:35㎡</p> <p>名称:地域経営研究センター 目的:社会人に対する学習機会の拡充を図るとともに地域課題を解決する機能を強化すること 設置年月:平成16年4月 規模等:134㎡</p>
----------------	--

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称:医療経営研究センター 目的:医療及び高齢者介護に関する政策及び施設経営の研究を行うとともに、公的機関や民間団体等とのパートナーシップを構築すること 設置年月:平成23年4月 規模等:65㎡</p> <p>名称:ICTイノベーション研究センター 目的:ICT技術の研究に取り組み、研究成果の社会展開を通じて静岡県を始めとした地域の発展に貢献すること 設置年月:平成25年4月 規模等:34㎡</p>	
----------------	--	--

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究特講	1前	2			○			7					オムニバス・共同 オムニバス・共同（一部） 兼1	
	生体環境科学特講	1前・2前		2		○			3						
	保健福祉政策特講	1前・2前		2		○									
	小計（3科目）	—	2	4	0	—	—	—	10	0	0	0	0	兼1	—
専門科目	看護技術開発特講	1前		2		○			2	2				オムニバス・共同（一部） 共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） 共同（一部） オムニバス・共同（一部）	
	感染看護学特講	1前		2		○			1						
	小児看護実践開発特講	1前		2		○			1						
	助産学特講	1前		2		○			1	1					
	がん看護理論特講	1前		2		○			2						
	周手術期看護学特講	1前		2		○			2						
	精神保健看護学特講	1前		2		○			1	1					
	地域・在宅看護システム特講	1前		2		○			1	1					
小計（8科目）	—	0	16	0	—	—	—	10	5	0	0	0	0	—	
演習・研究科目	看護学特別演習	1通	2				○		10	5					
	看護学特別研究I	1通	2				○		10	3					
	看護学特別研究II	2通	2				○		10	3					
	看護学特別研究III	3通	4				○		10	3					
	小計（4科目）	—	10	0	0	—	—	—	10	5	0	0	0	0	—
合計（15科目）			—	12	20	0	—	—	12	5	0	0	0	兼1	—
学位又は称号		博士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(修了要件) 本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。 (履修方法) (1)演習・研究科目10単位を必修科目として履修する。 (2)専門科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。 (3)共通科目の看護学研究特講2単位を必修科目として履修し、その他の共通科目のうち2単位以上を選択科目として履修する。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（静岡県立大学看護学研究科看護学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究特講	<p>（概要） 看護を科学的に探究するために、看護に関する研究論文を通して看護学の構築および必要な研究手法の概要を学ぶ。看護学を発展させる研究者として研究活動に必要な高度な研究手法について文献の検索やクリティークを通し、その能力を修得する。</p> <p>（オムニバス・共同／15回） (6 山田紋子・10 太田尚子／2回) (共同) 看護学における実践と研究 (5 操華子・10 太田尚子／2回) (共同) 研究の概念 (6 山田紋子・8 田中範佳／2回) (共同) 看護学における研究手法の特徴 (11 山下早苗・12 富安眞理／2回) (共同) 看護研究課題の選択 (9 篁宗一・11 山下早苗／2回) (共同) 研究デザイン的设计 (8 田中範佳・9 篁宗一／2回) (共同) 測定の理論：妥当性と信頼性 (6 山田紋子・12 富安眞理／2回) (共同) 関連文献の検討方法 (5 操華子・6 山田紋子・8 田中範佳・9 篁宗一・10 太田尚子・11 山下早苗・12 富安眞理／1回) (共同) 実際の論文のクリティーク</p>	オムニバス・共同
	生体環境科学特講	<p>（概要） 多様性に富むケアの受け手への看護支援を前提におき、自らの研究課題を前提におき、自らの研究課題を踏まえ、生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、研究知見を活用した科学的エビデンスの構築、看護介入の開発、理論開発の方法論を習得する。</p> <p>（オムニバス・共同（一部）／15回） ① 金澤寛明 担当4回 ヒトの感覚器の構造と機能、環境変化に対応する生体の反応 ② 荒井孝子 担当5回 大気環境と生体影響における看護の視点、健康診断における健康阻害因子の分析 ③ 井上健一郎 担当4回 大気環境と生体影響、発がん物質と生体影響、環境リスクから健康を守るための対策 ① 金澤寛明・② 荒井孝子・③ 井上健一郎／2回) (共同) 健康問題に関する看護介入の提案と理論的背景の検証・討議</p>	オムニバス・共同（一部）
	保健福祉政策特講	<p>（概要） わが国の医療・介護サービスにおける経営持続性について教授し、医療介護制度改革の動向を鑑み革新的な事業経営研究や医療・介護に関する政策手法や制度の特色も含めて考察を行う。地域包括ケアシステム改革の流れを概観し、政策評価・実証的なデータに基づく医療介護サービスのマネジメント方法を習得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護技術開発特講	<p>(概要) 看護介入に必要な形態機能学を学修し、看護実践のエビデンスを追求する能力と、適切な身体的アセスメント法を修得することを目指す。NICの精査を通して深く追求し、看護技術/介入には、どのような理論がはたらいているのか、看護技術が有効に発揮されるための要件について知識を深めることを目指す。</p> <p>(オムニバス・共同 (一部) /15回) (1 渡邊順子 担当1回) 看護実践理論(1) (3 荒井孝子 担当4回) 看護実践理論(2)、形態機能学的視点の看護研究(基礎的領域2)、ヘルスアセスメントと身体的アセスメント1・2、 (1 渡邊順子・13 山口みのり/2回) (共同) 形態機能学的視点の看護研究(基礎的領域1)、NIC:看護介入分類の精査1 (3 荒井孝子・14 永谷幸子/1回) (共同) 形態機能学的視点の看護研究(実践的領域) (1 渡邊順子・14 永谷幸子/3回) (共同) NIC:看護介入分類の精査2、看護技術・看護介入の効果研究1・2、 (3 荒井孝子・13 山口みのり/1回) (共同) NIC:看護介入分類の精査3 (1 渡邊順子・3 荒井孝子・13 山口みのり・14 永谷幸子/3回) (共同) 身体侵襲に関するエビデンスの検討、看護技術研究の現状と課題</p>	オムニバス・共同 (一部)
	感染看護学特講	<p>(概要) 世界規模で問題となっている感染症の現状について理解し、感染制御(感染管理)ならびに感染症看護の課題を探求するための学術的な基礎知識ならびに技術を修得する。</p>	
	小児看護実践開発特講	<p>(概要) 国内外における小児看護の研究の現状を外観し、小児看護実践の質向上および発展に貢献し得る研究を行うために、科学的エビデンスに基づいた研究方法論や、科学的エビデンスの構築や理論開発の研究方法論を学ぶ。さらに、小児看護の対象である子どもを研究対象とした研究方法についても検討する。</p>	
	助産学特講	<p>(概要) 周産期の母子や家族の健康課題を解決するために、Evidence-based Practice を活用して、エビデンスに基づく助産ケア、および女性中心のケアを提供できる基礎的能力を身につける。エビデンスに基づいた助産ケアの考え方やその実際を、Evidence-based Practice のステップを体験することで理解する。また、各自の助産学領域における関心テーマに関連した、既存の研究論文のクリティークを行い、文献レビューを実施する。さらに、仮説を設定し、概念図を作成して、自己の研究課題と研究の位置づけを明確にする。</p> <p>(共同 (一部) /15回) (10 太田尚子 担当4回) 助産学に関連する概念、概念分析、Evidence-based practice課題について、サブストラクション (10 太田尚子・17 藤田景子/11回) (共同) ガイダンス、概念分析発表、Evidence-based practice RCT、Evidence-based practice コホート研究他、研究デザイン、質的研究、サブストラクション発表、研究テーマに関する既存研究、研究課題の検討・発表、研究の意義、研究目的の検討・発表、文献レビュー・発表、仮説の設定と概念図の作成</p>	共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	がん看護理論特講	<p>(概要) 本科目では、がん患者とその家族への看護支援を前提におき、学生の関心のあるテーマを踏まえ、科学的エビデンスに基づいた看護実践を行うために必要な看護学および関連学問領域の諸理論・概念を学ぶ。さらに、そうした看護実践に向けた、科学的エビデンスの構築や理論開発の方法論を学ぶ。</p> <p>(オムニバス・共同 (一部) /15回) (6 山田紋子 担当9回) がん看護学および関連学問領域の諸理論、モデル、概念(病みの軌跡理論、病気の不確かさ理論、移行理論、意思決定理論、意思決定支援モデル)、理論開発の方法論(概念分析、理論分析、理論構築)、科学的エビデンスの構築の方法(メタ統合、メタ分析、システムティックレビュー) (7 青木和恵 担当2回) がん看護学および関連学問領域の諸理論、モデル、概念(コンフォート理論、The Model of Symptom Management (MSM)、The Integrated Approach to Symptom Management (IASM)) (6 山田紋子・8 青木和恵/4回) (共同) オリエンテーション、関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題に関する検討①・②・③</p>	オムニバス・共同 (一部)
	周手術期看護学特講	<p>(概要) 周手術期看護に関する理論と看護実践を追究する。周手術期看護分野における理論や最近の研究動向を概観し、研究デザインと専門的知識を修得することにより、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。</p> <p>(オムニバス・共同 (一部) /15回) (6 山田紋子 担当7回) 周手術期の看護実践と理論、周手術期に関連する研究方法、麻酔と手術侵襲に関する研究論文の批評、周手術期の看護実践に関する研究論文の批評、質的研究のエビデンスの統合を踏まえ、エビデンスを見出す方法とその成果の活用方法、周手術期看護介入の効果研究、 (8 田中範佳 担当7回) 周手術期の看護実践と理論、周手術期に関連する研究方法、麻酔と手術侵襲に関する研究論文の批評、周手術期の看護実践に関する研究論文の批評、量的研究のエビデンスの統合を踏まえ、エビデンスを見出す方法とその成果の活用方法、周手術期看護介入の効果研究 (6 山田紋子・8 田中範佳/1回) (共同) 研究課題の焦点化と方法論の検討</p>	オムニバス・共同 (一部)
	精神保健看護学特講	<p>(概要) 精神看護学の応用理論を学び、最新の精神看護・保健学の論文を幅広く読みとく。そして最新の精神看護学の知見についての現状と課題を明らかにする。その過程を踏まえて現在の精神看護実践の評価の視点を養い、今後の支援方法について検討する。</p> <p>(共同 (一部) /15回) (9 篁宗一 担当10回) 国内における精神保健上の問題・対策についての現状、諸外国における精神保健上の問題・対策についての現状、精神障害に対する有効な予防対策の現状、医療機関内で展開する精神看護のスキル、学校現場などで展開する予防的介入モデル、精神看護で用いる理論や概念のモデル(ストレス、危機理論、リカバリーモデル、ストレングスモデル) (9 篁宗一・16 村方多鶴子/5回) (共同) 地域での支援に関するテーマ(訪問看護、行政や家族会の支援)、精神障害者の家族支援や地域移行支援などの実践的応用、産業界でのメンタルヘルス対策、今後の精神保健対策への提案</p>	共同 (一部)
	地域・在宅看護システム特講	<p>(概要) 地域の集団特性に伴う健康回復、維持、増進のために、地域の健康状態把握、資源調査・開発、看護援助方法及び地域包括ケアシステム整備について探究する。また個人・家族及び集団の健康指標、QOL指標に関する質的・量的評価、顕在・潜在の健康問題把握と、健康問題解決のための研究を行う。</p> <p>(オムニバス・共同 (一部) /15回) (12 富安真理 担当7回) 地域看護の概念、活用する理論及び法律体系、在宅看護の概念、活用する理論及び法律体系、地域の健康問題アセスメント法および問題解決法、家族を対象とした取組と課題、まとめ (15 安田真美 担当4回) 地域の健康問題解決課程、地域・在宅看護に関するトピックス、 (12 富安真理・15 安田真美/4回) (共同) 地域・在宅看護に関する研究動向</p>	オムニバス・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究科目	看護学特別演習	<p>(概要) 主とする領域に該当する演習を選択し、看護学特講での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。多様な看護の対象を踏まえ、文献クリティーク、フィールドワークなどの演習を通して、自己の研究課題を明確にする。</p> <p>(1 渡邊順子) 看護技術開発特講等の学修を活かして、特に排泄管理、輸液管理に関する看護技術開発について、批判的、系統的にレビューし、フィールドワークおよびシミュレーション等を行い、自己の研究課題を焦点化する。</p> <p>(3 荒井孝子) 看護技術開発特講及び生体環境科学特講等の学修を活かして、特に社会環境医学の観点から大気中浮遊微粒子成分、黄砂の健康影響と看護との関連についてレビューし、自己の課題を明確にする。</p> <p>(5 操華子) 講義で既習した知識をもとに、感染管理・感染看護学領域における研究課題を探索し、その研究課題を探究する方法論について検討するための知識・技術を修得する。並行して、各自の研究課題を探究するのに適した方法論の検討を行う。</p> <p>(6 山田紋子) がん看護理論特講での学修を基に、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関するテーマについて、批判的、系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(7 青木和恵) 学生自身の臨床経験と、修得した文献検討に関する知識など本課程で修得した集学的知識と思考より、がん患者のWOCケア、がん患者の療養Processに関する研究課題を明確にする。</p> <p>(8 田中範佳) 周手術期にある患者への看護実践における課題の明確化する。その課題を展開、開発し解決に向けた方法論の検証により、自らの研究に発展させるための方策を修得する。</p> <p>(9 篁宗一) 精神保健看護学特講の学修を基に、地域の作業所や精神科医療機関など精神看護実践を行う場所の見学や実践体験を行い支援法を学ぶとともに、看護職間や多職種間での連携を通じて精神看護の技術の習得を行うことで、医療機関から地域への移行の課題と展望について理解し、円滑な導入方法を具体化する。</p> <p>(10 太田尚子) 助産学特講での学修を基に、周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルスなどのテーマについて、文献収集、批判的吟味、系統的レビューを行うと共に、フィールドワークを実施することを通して、自己の研究課題を明確にする。</p> <p>(11 山下早苗) 小児看護実践開発特講での学修を基に、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援に関するテーマについて、文献の概観を明らかにし自己の研究課題を焦点化する。さらに、文献を批判的に吟味し研究手法を検討する。</p> <p>(12 富安眞理) 地域・在宅看護システム特講の学修を基に、地域包括ケアおよび神経難病養育とその家族への訪問看護支援に関するテーマについて、文献を包括的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(13 山口みのり) 看護技術開発特講等の学修を活かして、特に清潔ケア、排泄ケアに関する看護技術教育および新人看護師教育に関する教育技法開発について、批判的、系統的にレビューし、フィールドワークおよびシミュレーション等を行い、自己の研究課題を焦点化する。</p> <p>(14 永谷幸子) 看護技術の開発や看護技術の効果の検証に関する国内外の論文を検討し、研究動向をまとめ、フィールドワークなどの演習を通して、特に姿勢変換や軽運動と循環動態の変動について関心のある問題を掘り下げ、文献検討の結果と合わせて自己の研究課題を明確にする。</p> <p>(15 安田真美) 地域・在宅看護システム特講の学修をもとに、学生が関心のある介護保険施設における認知症患者のQOL向上を目指した看護に関する文献を批判的・系統的に検討する。その結果を踏まえて、フィールドワークを行い、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(16 村方多鶴子) 精神看護学特講での学修を基に、精神科訪問看護を行うスタッフ教育や精神障害を持つ母親への支援について、批判的・系統的にレビュー</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究科目	看護学特別研究 I	<p>(概要) 看護学研究特講、看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、自己の研究課題に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(1 渡邊順子) 看護技術開発特講、看護学特別演習等の学修を活かして、特に排泄管理、輸液管理における看護技術開発に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(3 荒井孝子) 看護技術開発特講及び生体環境科学特講等での学修を活かして、特に社会環境医学の観点から大気中浮遊微粒子成分、黄砂の健康影響と看護との関連に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(5 操華子) 博士論文の研究計画、研究実施手順、研究倫理、フィールド調整、分析方法について理解を深め、感染管理・感染看護学領域に関する研究課題の研究計画立案、倫理審査申請書類作成に必要な諸手続きを修得する。</p> <p>(6 山田紋子) 看護学研究特講、がん看護理論特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(7 青木和恵) 学生が修得した集学的知識と思考により、次に関する研究計画書を作成する。①がん患者のWOC(オストミー・創傷・失禁)ケアに関する開発②がん患者の療養Processに関する問題・課題</p> <p>(8 田中範佳) 周手術期における術前不安が及ぼす影響に関する文献精読等により術前不安に対する研究課題を決定し、博士論文の作成に向けた研究計画を立案し、研究計画書を作成する。</p> <p>(9 篁宗一) 看護学研究特講、精神保健看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、思春期の地域の精神保健に関する早期予防についてテーマを明確にし、適切な研究方法を用いた研究計画を作成する。</p> <p>(10 太田尚子) 看護学研究特講、助産学特講、看護学特別演習での学修を踏まえて、関心のある周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルス等に関する研究課題を明確にして、研究計画書を作成する。</p> <p>(11 山下早苗) 看護学研究特講、小児看護実践開発特講、看護学特別演習での学修を活用し、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上および発展に寄与できる博士論文の研究計画書を作成する。</p> <p>(12 富安真理) 地域・在宅看護システム特講、看護学特別演習での学修を活用して、地域包括ケアおよび神経難病養育とその家族への訪問看護支援に関する研究課題の研究計画書を立案する。</p> <p>(13 山口みのり) 看護技術開発特講、看護学特別演習等での学修を活かして、特に清潔ケア、排泄ケアに関する看護技術教育および新人看護師教育に関する教育技法開発に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(14 永谷幸子) 看護学特別演習の学修を踏まえて、特に姿勢変換や軽運動と循環動態の変動に関する自己の研究課題における研究目的を設定し、その研究目的を達成するための、妥当性のある具体的な研究計画を立案・作成する。</p> <p>(16 村方多鶴子) 看護学研究特講、精神保健看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のある研究課題を決定し、博士論文の作成に向けた研究改革を立案し、研究計画書を作成する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究科目	看護学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、自己の研究計画に沿ってデータ収集、データ分析等の研究活動を遂行する。</p> <p>(1 渡邊順子) 看護学特別研究Ⅰの学修を活かして、特に排泄管理、輸液管理における看護技術開発に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(3 荒井孝子) 看護学特別研究Ⅰの学修を活かして、特に社会環境医学の観点から大気中浮遊微粒子成分、黄砂の健康影響と看護との関連に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(5 操華子) 感染管理・感染看護領域における研究課題に関する研究計画書に沿ってデータ収集と分析を実施し、実施上の問題に適切に対処しながら研究プロセスを進める。</p> <p>(6 山田紋子) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題についての研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(7 青木和恵) ①がん患者のWOC(オストミー・創傷・失禁)ケアに関する開発、②がん患者の療養Processに関する支援の開発、について立案した研究計画を実行する。</p> <p>(8 田中範佳) 博士論文の周手術期における術前不安に関する研究課題に基づき、看護学特別研究Ⅰで作成した研究計画を洗練させ、計画を実施する。</p> <p>(9 篁宗一) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、思春期の地域の精神保健の早期予防研究に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(10 太田尚子) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、関心のある周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルスなどの研究課題について、研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(11 山下早苗) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上および発展に寄与できる博士論文の研究を、研究計画書に沿って遂行し、研究成果の一部を公表する。</p> <p>(12 富安眞理) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、地域包括ケアおよび神経難病養育とその家族への訪問看護支援に関する研究課題に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(13 山口みのり) 看護学特別研究Ⅰの学修を活かして、特に清潔ケア、排泄ケアに関する看護技術教育および新人看護師教育に関する教育技法開発に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(14 永谷幸子) 自身の研究課題(特に姿勢変換や軽運動と循環動態の変動)に基づいて作成した研究計画に沿ってデータ収集と分析を行い、得られた結果を多面的に検討する。必要時、予備研究を繰り返し、研究目的に合った研究方法になるように研究計画を精練する過程を踏む。</p> <p>(16 村方多鶴子) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のある、精神科訪問看護を行うスタッフ教育や精神障害を持つ母親への支援についての研究課題に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習・研究科目	看護学特別研究Ⅲ	<p>(概要) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、自己の研究計画に沿って、研究目的、研究デザイン、研究方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(1 渡邊順子) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学修を活かして、特に排泄管理、輸液管理における看護技術開発に関する研究計画に基づき、博士論文を完成させる。</p> <p>(3 荒井孝子) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学修を活かして、特に社会環境医学の観点から大気中浮遊微粒子成分、黄砂の健康影響と看護との関連に関する研究計画書に基づき、博士論文を完成させる。</p> <p>(5 操華子) 感染管理・感染看護領域における研究課題に関する博士論文を完成し、学内発表・論文投稿の準備および学会での研究発表準備に必要な知識を深め、必要な手順を修得する。</p> <p>(6 山田紋子) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、学生の周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題についての研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(7 青木和恵) がん患者のWOC(オストミー・創傷・失禁)ケアに関する開発、②がん患者の療養Processに関する支援の開発、について実施した研究を博士論文として完成させる。</p> <p>(8 田中範佳4) 周手術期における術前不安に関する研究テーマについて看護学特別研究Ⅰ・Ⅱで立案した研究計画に基づき、研究過程を推進し、博士論文を完成する。</p> <p>(9 篁宗一) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、研究計画を進めることで精神看護実践の評価の視点を養い、思春期の地域の精神保健について早期予防を踏まえた今後の支援法を開発し博士論文を完成させる。</p> <p>(10 太田尚子) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルスなどの研究課題について、研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(11 山下早苗) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上及び発展に寄与できる博士論文を完成させる。</p> <p>(12 富安真理) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、地域包括ケアおよび神経難病養育とその家族への訪問看護支援に関する研究課題に関する研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(13 山口みのり) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学修を活かして、特に清潔ケア、排泄ケアに関する看護技術教育および新人看護師教育に関する教育技法開発に関する研究計画書に基づき、博士論文を完成させる。</p> <p>(14 永谷幸子) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、特に姿勢変換や軽運動と循環動態の変動に関する研究課題について得られた知見を博士論文としてまとめ、研究成果を国内外に発信する。</p> <p>(16 村方多鶴子) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、精神科訪問看護を行うスタッフ教育や精神障害を持つ母親への支援についての研究課題に関する研究計画書に沿って、論理的に思考し、博士論文として完成させる。</p>	

静岡県公立大学法人 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
静岡県立大学			
薬学部			
薬学科(6年制)	80	-	480
薬科学科	40	-	160
食品栄養科学部			
食品生命科学科	25	-	100
栄養生命科学科	25	-	100
環境生命科学科	20	-	80
国際関係学部			
国際関係学科	60	-	240
国際言語文化学科	120	-	480
経営情報学部			
経営情報学科	125	-	500
看護学部			
看護学科	120	25 ^{3年次}	530
計	615	25 ^{3年次}	2,670
静岡県立大学短期大学部			
歯科衛生学科(3年制)			
歯科衛生学科	40	-	120
社会福祉学科			
社会福祉専攻	20	-	40
介護福祉専攻	50	-	100
こども学科	30	-	60
計	140	-	320
静岡県立大学大学院			
薬食生命科学総合学府			
薬学専攻(4年制D)	5	-	20
薬科学専攻(M)	30	-	60
薬科学専攻(D)	11	-	33
食品栄養科学専攻(M)	25	-	50
食品栄養科学専攻(D)	10	-	30
環境科学専攻(M)	20	-	40
環境科学専攻(D)	7	-	21
薬食生命科学専攻(D)	5	-	15
国際関係学研究科			
国際関係学専攻(M)	5	-	10
比較文化専攻(M)	5	-	10
経営情報イノベーション研究科			
経営情報イノベーション専攻(M)	10	-	20
経営情報イノベーション専攻(D)	3	-	9
看護学研究科			
看護学専攻(M)	16	-	32
計	152	-	350

平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
静岡県立大学				
薬学部				
薬学科(6年制)	80	-	480	
薬科学科	40	-	160	
食品栄養科学部				
食品生命科学科	25	-	100	
栄養生命科学科	25	-	100	
環境生命科学科	20	-	80	
国際関係学部				
国際関係学科	60	-	240	
国際言語文化学科	120	-	480	
経営情報学部				
経営情報学科	125	-	500	
看護学部				
看護学科	120	25 ^{3年次}	530	
計	615	25 ^{3年次}	2,670	
静岡県立大学短期大学部				
歯科衛生学科(3年制)				
歯科衛生学科	40	-	120	
社会福祉学科				
社会福祉専攻	20	-	40	
介護福祉専攻	50	-	100	
こども学科	30	-	60	
計	140	-	320	
静岡県立大学大学院				
薬食生命科学総合学府				
薬学専攻(4年制D)	5	-	20	
薬科学専攻(M)	30	-	60	
薬科学専攻(D)	11	-	33	
食品栄養科学専攻(M)	25	-	50	
食品栄養科学専攻(D)	10	-	30	
環境科学専攻(M)	20	-	40	
環境科学専攻(D)	7	-	21	
薬食生命科学専攻(D)	5	-	15	
国際関係学研究科				
国際関係学専攻(M)	5	-	10	
比較文化専攻(M)	5	-	10	
経営情報イノベーション研究科				
経営情報イノベーション専攻(M)	10	-	20	
経営情報イノベーション専攻(D)	3	-	9	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	16	-	32	
看護学専攻(D)	3	-	9	課程変更(認可申請)
計	155	-	359	